

- 問1 応仁の乱以降、農民や武士が団結して守護大名を倒し、自分たちで地域を治めた動きの一つを何という？
- 問2 二条河原の落書など、中世の日本の文芸や歌で好まれた「七・五・七・五」を基調とするリズムを何といいますか？
- 問3 1428年に近江国で起こり、馬借らが蜂起した民衆とともに幕府へ徳政を求めた一揆を何という？
- 問4 室町時代の中期、京都の東山に山荘を建てて文化を奨励した第8代将軍は誰？
- 問5 室町時代に惣村で村の運営のために行われた、住民による話し合いの集会を何という？
- 問6 建武の新政が行われていた期間の混乱ぶりを風刺し、当時の社会状況を伝えるために作られた落書を何という？
- 問7 室町時代に町衆が主体となって祭礼が運営された、京都にある神社を何という？
- 問8 中世において、寺社の門前や交通の要所に、決まった日にちや回数で開かれる商業活動の場を何といいますか？
- 問9 足利義政の後継者争いをきっかけに発生した応仁の乱は、何年間続いた？
- 問10 15世紀後半、細川氏と山名氏が対立し、将軍の跡継ぎ問題などが絡んで京都で起こった大規模な内乱を何という？
- 問11 堺の町で、有力な商人たちが組織した合議制の運営組織のことを何という？
- 問12 室町時代、京都に慈照寺銀閣を建てて、簡素で気品ある文化の発展を支えた将軍は誰？
- 問13 室町時代、堺や博多などが大きく発展するきっかけとなった、明との間で行われた貿易を何という？
- 問14 鎌倉府の長官として、足利氏の一族が世襲して関東地方の軍事や行政を司った役職を何という？
- 問15 能の母体となった、民衆の間で行われていた芸能を何という？
- 問16 勘合貿易において、正規の貿易船を証明するために、明側と日本側で半分ずつ持った札のことを何という？
- 問17 室町時代、3代将軍足利義満が京都の北山に建てた、北山文化を代表する建築物を何という？
- 問18 明に渡って絵画を学び、独自の力強い水墨画を大成させた画僧は誰？
- 問19 室町時代、細川氏が実権を握り、明との間で行われた貿易を何という？
- 問20 足利義満の時代に、公家文化と武家文化が融合して生まれた文化を何という？
- 問21 足利尊氏が鎌倉幕府を倒したあとに離反し、吉野に逃れて対立した天皇は誰？
- 問22 室町幕府が、明との貿易船を正式なものと証明するために使用した札を何という？

答え合わせ・解説

問1	答え 一向一揆	一向一揆は、浄土真宗の強い信仰で結ばれた民衆が指導者のもとに組織的に戦ったものです。彼らは守護大名を追放し、加賀国のように長期間にわたり自分たちの支配を確立する地域もありました。
問2	答え 七五調	二条河原の落書は、当時の世相に対する痛烈な批判を、当時の人々にとって馴染み深く覚えやすい「七五調」のリズムで表現しました。これにより、多くの人々に内容が伝わり、政治的な批判が庶民の間にまで浸透しました。
問3	答え 正長の土一揆	この一揆は、近江国の馬借が先導したとされ、土倉や酒屋を襲って借金の証文を破り捨てました。彼らは「徳政」を要求し、それまでの借金を帳消しにすることを幕府や領主に認めさせようとしていました。
問4	答え 足利義政	足利義政は京都の東山に山荘（現在の慈照寺）を建て、そこを拠点に水墨画、茶の湯、華道などを愛好しました。この時期に醸成された文化は、簡素で気品のある「わび・さび」の精神を重んじる東山文化として完成されました。
問5	答え 寄り合い	「寄り合い」は、村の運営に関わる重要な事項を決定するための集会です。ここで村独自のルールである「惣掟」を定めたり、年貢の配分や用水路の管理などについて話し合ったりしました。農民たちは対等に近い立場で議論に参加しました。
問6	答え 二条河原の落書	二条河原の落書は、当時の世の中の様子や政治の混乱を風刺した文章です。二条河原（現在の京都市内）の壁などに書かれたとされており、当時の庶民や武士が感じていた政府への不信感が鋭い言葉で表現されています。
問7	答え 八坂神社	八坂神社で行われる祇園祭は、室町時代の京都において、有力な商工業者である「町衆」が中心となって運営されました。町衆は自分たちの住む街を守り、団結力を誇示するために豪華な山鉾を造り、祭りを盛り上げました。これは都市自治の象徴でもありました。
問8	答え 定期市	寺社はその権威と安全性を背景に、参拝者が集まる門前や街道の要所に定期市を開かせました。決まった日に開かれるこの市は、農村や都市の人々が物資を交換する場となり、経済の中心地として発展しました。
問9	答え 11	この戦乱は11年もの長期間にわたって続きました。京都の主要な施設や町並みはことごとく焼き払われ、幕府の権力は形骸化しました。全国の守護大名が東軍・西軍に分かれて戦ったため、地方にも戦火が広がり、秩序が大きく崩れました。
問10	答え 応仁の乱	応仁の乱は1467年に始まり、約11年間にわたって京都を舞台に繰り広げられた戦いです。この戦いにより、京都の町は荒廃し、幕府の権威は地に落ちました。守護大名が領国を留守にしていたため、各地で下剋上の風潮が強まりました。
問11	答え 会合衆	会合衆は、堺の有力者による合議組織です。彼らは町を運営するための相談役や意思決定者として活動し、堀をめぐらせるなどの防衛策を講じたり、町独自の法を運用したりしました。この組織により、堺は「日本で最も自由な都市」としての地位を確立しました。
問12	答え 足利義政	足利義政は京都の東山に山荘を構え、茶の湯や華道、連歌などの文化的な活動を奨励しました。義政自身が理想とした「わび・さび」という美的感覚が、その後の建築や庭園のデザインに反映されました。
問13	答え 日明貿易	日明貿易は、当時の日本にとって中国の文物を輸入する重要な手段でした。明側からは銅銭（永楽通宝など）や絹織物、書物などが輸入され、日本からは金、銀、工芸品などが輸出されました。この利益によって堺や博多の都市が繁栄し、経済的に自立する大きな原動力となりました。
問14	答え 鎌倉公方	鎌倉公方は、室町幕府の将軍の親族が任命されることが多く、関東における事実上の将軍代理として君臨しました。関東管領という補佐役をつけ、独自の行政権や軍事動員権を行使することで、強力な地方政権のような形をとっていました。
問15	答え 猿楽	「猿楽」は、当時の民衆に親しまれていた物真似や軽業、踊りなどを中心とした芸能です。室町時代になると、観阿弥・世阿弥親子によって芸術的な洗練が加えられ、「幽玄」の美を伴う現在の能へと進化しました。
問16	答え 合い札	勘合符とは、明の皇帝が発行した証明書で、半分に割った「合い札」という形式をとっていました。日本からの使節団が到着した際、明側が持つ半分と突き合わせ、一致すれば貿易が許可されました。これにより、幕府の許可を得た船であることが証明され、安全な交易が可能となりました。
問17	答え 鹿苑寺金閣	鹿苑寺金閣は、この北山山荘の中核として建てられた舍利殿です。2層と3層に金箔が貼られており、池に映る姿は室町文化の豪華さを象徴しています。
問18	答え 雪舟	雪舟は日本の禅僧でありながら、遣明船に乗って中国へ渡り、本場の絵画技術を学びました。帰国後、彼は風景を大胆な構図で表現する日本独自の水墨画を確立し、数多くの傑作を残しました。「四季山水図巻」などが代表作として知られています。
問19	答え 勘合貿易	足利義満が開始した勘合貿易は、明の皇帝が発行した証明書である「勘合」を所持した船のみが貿易を許可される仕組みです。これにより倭寇と区別され、円滑で利益の大きい貿易が可能となりました。細川氏や大内氏といった有力な守護大名がこの貿易の実権を争い、大きな利益を得ました。
問20	答え 北山文化	北山文化の特色は、伝統的な公家文化の優雅さと、力強い武家文化が融合している点にあります。この時期には金閣に代表されるような建築のほか、禅宗の影響を受けた芸術や学問が発展しました。
問21	答え 後醍醐天皇	この武士たちの不満を受け、足利尊氏が後醍醐天皇に反旗を翻しました。尊氏は京都を制圧して新たな天皇を擁立し、後醍醐天皇は吉野へ逃れて「南朝」を開きました。これに対して京都の尊氏側を「北朝」と呼び、以後約60年にわたり両者が争う時代となりました。
問22	答え 勘合	「勘合」は、日本と明がそれぞれ発行する二枚一組の符札です。これを照らし合わせることで貿易船の身分を証明しました。この札を持つ船だけが貿易を認められたため、この貿易を「勘合貿易」と呼びます。